

第 13 回

ヒヤリ・ハッと・ホッと事例に学ぶ

「薬剤業務リスクマネジメント」研究会プログラム

司会・進行：佐藤 宏樹（東京大学・院薬） [前半]

堀 里子（慶應義塾大学・薬） [後半]

午前の部（7 月 22 日（日）10:00 ～ 12:10）

10:00-10:05 はじまりの挨拶 岩楯新司（文京区薬剤師会・会長）

10:05-11:05

特別講演

「薬局プレアボイドのための“薬学的 症例 D I 検討会”のすすめ」

澤田 康文（NPO 法人 DLM センター センター長、
東京大学・院薬 客員教授）

発表時間 1 題 5 分（全 24 演題）

<セッション 1>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-1

11:15-11:45

座長：佐藤 宏樹（東京大学・院薬）

- 【A01】 薬剤師の「血液検査をして下さい」の訴えから横紋筋融解症の重篤化を防止
- 【A02】 降圧薬が効かなくなった？それとも抗がん剤自身の副作用？急な血圧コントロール不良
- 【A03】 胃瘻の在宅患者から、粉碎の粉薬と塩化ナトリウムを混ぜたら血のような色になったと相談された
- 【A04】 クラリスロマイシンとリバーロキサバンの併用による相互作用を回避

<セッション 2>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-2

11:45-12:10

座長：木下 大輔（福岡市薬剤師会）

- 【A05】 前医からの転院で処方もれ、倍量投与、不適正使用の問題発見
お薬手帳、患者インタビューで解決
- 【A06】 リピディル錠による皮膚炎の副作用歴のある患者に再度本剤が処方
- 【A07】 骨粗鬆症治療の重複を回避

(12:10-13:00 昼休み)

午後の部（7月22日（日）13:00～15:30）

<セッション 3>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-3

13:00-13:30

座長：三木 晶子（東京大学・院薬）

- 【A08】 ワルファリンが増量で処方されているのに、患者は減量して服用していたが、
実は減量が正しかった
- 【A09】 処方箋・お薬手帳に記載のない併用薬を聴取！！セルセプトとリファンピシンの
相互作用の影響は、添付文書の確認だけでは不十分だった
- 【A10】 がん化学療法での通常のレジメンに支持療法として必要な制吐剤の処方がな
かった
- 【A11】 処方箋の増量コメントと前回用量の不一致からワルファリンの用量ミスを発
見

＜セッション 4＞

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-4

13:30-13:55

座長：松原 博之（福岡市薬剤師会）

- 【A12】 副作用疑いで服用中止となったバクタが再処方！
- 【A13】 制酸剤との併用回避により、抗 HIV 治療の失敗を防止！
- 【A14】 疥癬と診断された患者に以前に処方されたステロイドが処方された

＜セッション 5＞

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-5

13:55-14:20

座長：田中 祥子（和同会薬局）

- 【A15】 薬歴に記録していた処方箋検査値で腎機能障害患者へのジェヌビアの高用量処方を回避
- 【A16】 ネキシウム服用中の患者に処方されたタガメットは、適応外治療のため？
- 【A17】 むくみに対する利尿薬の追加を回避できた

(14:20-14:35 休憩)

<セッション 6>

テーマ B : 薬剤の調製・調合のリスクマネジメント-1

テーマ C : 服薬指導・薬歴管理のリスクマネジメント-1

14:35-15:05

座長：堀 里子（慶應義塾大学・薬）

【B01】 ノルspanテープの新規取り扱い時、どうすればよいかわからなかった

【C01】 一包化の中の OD 錠、手についた唾液で溶けてしまう多系統萎縮症の患者

【C02】 パーキンソン病患者にニトロペンが処方されたときに注意することは

【C03】 舌下錠のトラブル

ニトロペン舌下錠 0.3 mg が 30 分たっても溶けなかった

<セッション 7>

テーマ C : 服薬指導・薬歴管理のリスクマネジメント-2

15:05-15:30

座長：小島 孝一（株式会社ファーマみらい）

【C04】 お薬手帳を忘れて連続で副作用歴のある薬を処方された患者

【C05】 トビエース錠服用中の患者が嚥下困難を訴えた！

【C06】 アリミデックスは 5 年投与か、10 年投与か？医師達の見解が違って、混乱した患者

15:30-15:35

おわりの挨拶

田中 泰三（福岡市薬剤師会・会長）

15:35-15:50

課題レポート